

長崎IR構想 骨子 概要

【地方創生型IRの必要性】

- 人口減少に歯止めをかけるためには、地方に良質な雇用の場を創出する必要。
- 訪日外国人はゴールデンルートに集中しており、地方に新たな人の流れを創出する必要。
- 我が国にIRを導入するに当たっては、大都市型だけではなく『地方創生型IR』を導入し、地方への新たな人の流れを創出していく必要。
- 『地方創生型IR』とは、地方の国際観光拠点として強力な集客力を有するとともに、地方内での周遊を促進する強力な送客力を有する施設。

長崎県は高いポテンシャルを有する地方創生型IR導入の最適地

①アジアとの近接性

- ・長崎から3時間以内で到達できる東アジア都市人口は6,000万人超（上海、台北、北京、東京ほか）

②国際的にメッセージ性の高い観光資源

- ・歴史遺産群：世界最後の被爆の歴史、2つの世界文化遺産候補「九州・山口の近代化産業遺産群」、「長崎の教会群とキリスト教関連遺産」など
- ・九州1位の日本有数のテーマパーク（ハウステンボス）
- ・離島をはじめとした自然環境

③ハウステンボスとの相乗効果

- ・開発面積152ha、総投資額約2,500億円超、年間約300万人の集客力を持つ全国有数の地方観光拠点施設。
- ・観光分野のみにとどまらない積極的な事業展開
- ・オリンピック開催前にIR開業が可能

④行政・議会・民間の連携

- ・県・佐世保市共同の推進体制、県・市議会の理解
- ・西九州統合型リゾート研究会を中心とした積極的かつ継続的な活動、県内の全商工会議所の総意による要望活動

⑤九州広域の多様な観光資源との連携

- ・質の高い温泉、海、山、城、食などの多様な自然・歴史文化が近接
- ・九州新幹線やクルーズトレイン「ななつ星in九州」をはじめとする観光列車などの魅力的な移動手段
- ・九州単位での観光振興の取組

【IR構想エリアの考え方】

3つのエリアをベースに重層的な広域観光圏を形成

- ① IR施設を有する国際観光拠点
佐世保市ハウステンボス地域
高い集客力とリゾートとしてのインフラとノウハウ、園内駐車場19.6万㎡を主要な開発エリアとして想定
- ② IRと一体的になって魅力を補完する国際観光リゾートエリア
大村湾を中心とした長崎県域
- ③ 多様な観光ニーズを受け止める広域周遊エリア
九州地域

基本コンセプト ～日本の産業革命発祥の地「長崎」からの『観光産業革命』の実現～

○古来から日本のゲートウェイとして機能してきた長崎県は、これまで、わが国の産業面、文化面での大きな革命の原点としての歴史的背景を持ち、世界最後の被爆の歴史、2つの世界遺産候補など国際的にメッセージ性の高い観光資源を有する。また、主要な観光地であるハウステンボス全国有数の地方観光拠点施設であり、観光産業にとどまらず観光ビジネス都市に向けた先進的事業や、「世界初」「日本初」にこだわった事業展開を進めている。

○こうした長崎の土壤にIR導入を起爆剤として加えることで、日本の観光産業に大きな変革をもたらす『観光産業革命』を長崎から実現する。

【長崎が目指す『観光産業革命』とは】

- (i) 国際観光拠点整備によるゴールデンルートから地方へのひとの流れの創出
- (ii) 九州の多様な観光資源を最大限に活かす長崎・九州おもてなしネットワークの構築
- (iii) 新たな観光産業の創出や他産業との連携による国際観光ビジネスフロンティアの開拓

(i) 国際観光拠点整備によるゴールデンルートから地方へのひとの流れの創出

- ・「アジアとの近接性」「国際的にメッセージ性の高い観光資源」「ハウステンボスとの相乗効果」といったポテンシャルを活用し、日本を代表する国際観光拠点を整備することで、長崎・九州の国内外の情報発信力を抜本的に強化、ゴールデンルートから地方への新たな人の流れを創出
- ・ハウステンボスを核としたIR施設整備、アジアとの近接性の活用、世界で共有すべき「祈り」の歴史・文化の発信、大都市にはない「海」「しま」をはじめとした自然環境の活用 など

(ii) 九州の多様な観光資源を最大限に活かす長崎・九州おもてなしネットワークの構築

- ・「九州広域の多様な観光資源との連携」といったポテンシャルを活用し、集約型滞在施設であるIRを核として、九州の多様な観光資源を自由に楽しむオーダーメイド型の周遊観光を促進
- ・IRに長崎・九州観光のショーウィンドウ機能、送客機能を導入、日本の地方の魅力を世界へ発信 など

(iii) 新たな観光産業の創出や他産業との連携による国際観光ビジネスフロンティアの開拓

- ・しまなどの自然環境を活かした古民家ステイ、民泊の取組やハウステンボスの先駆的な事業展開を土壤とした新たな観光産業の創出や他産業を含めた産業振興を展開
- ・アイランドツーリズム、ヘルスツーリズムなど新たな観光産業の創出、国際水準の観光人材の育成、地場製品の活用やシステム開発などの他産業との連携

IR施設の機能整備の方向性等

- ① 観光拠点機能（富裕層に対応した宿泊・リテール・カジノ機能等の強化、ユニークな体験施設など）
- ② 周遊拠点機能（長崎・九州のショーウィンドウ、周遊観光コンシェルジュなど）
- ③ 発展拠点機能（観光人材の育成、先進的な観光ビジネスの取組など）

○集客や広域周遊を支える交通アクセスの整備（陸・海・空、移動時）

IR導入による地域活性化の循環サイクルの創出

初期投資 500億円 経済波及効果 約2,544億円
観光客 320万人増 雇用誘発効果 11,062人
※西九州統合型リゾート研究会試算

IRエリア全体として再開発した場合の効果はさらに拡大。国の動向も踏まえながら再試算を実施。

○地域活性化の好循環に向けた納付金の活用の方向性

- 『観光産業革命』の実現に向けた投資
- ① 観光振興への投資（歴史文化資産の維持・活用、観光まちづくり）
 - ② 周遊観光機能の強化（送客機能充実）
 - ③ 観光ビジネスへの投資（産業振興、人材育成）

- 「地域課題」の解決に向けた投資
- ① リスク対策
 - ② 自然環境の保全
 - ③ 福祉、教育の質の向上

社会的リスク対策

○諸外国の状況を踏まえた上で、万全の対策を講じ、リスクを最小化する。
○社会的リスク対策は国の法令等による規制、事業者による自律的な規律が基本となる。地域としても、国や事業者とともに必要な対策を講じる。（特に下線部については、地域での対策が必要。）

①組織悪関係

カジノ規制組織の設置、カジノ設置及び運営の規制、地域における環境監視組織の設置、事業者との協定、暴力団排除組織の設立、欠格者に係る入場規制など

②治安関係

教育機関や病院等の公共性の高い施設・住宅地との一定距離の保持、隔離、風俗環境の保持等のために必要な規制など

③青少年関係

若者向けの教育プログラム、広告及び宣伝の規制、未成年者に係る入場規制、地域におけるギャンブル依存症対策組織の設置など

④依存症関係

普及啓発・教育活動、広告及び宣伝の規制、自己排除プログラム等の入場規制、地域におけるギャンブル依存症対策組織の設置など

IR構想エリアの考え方

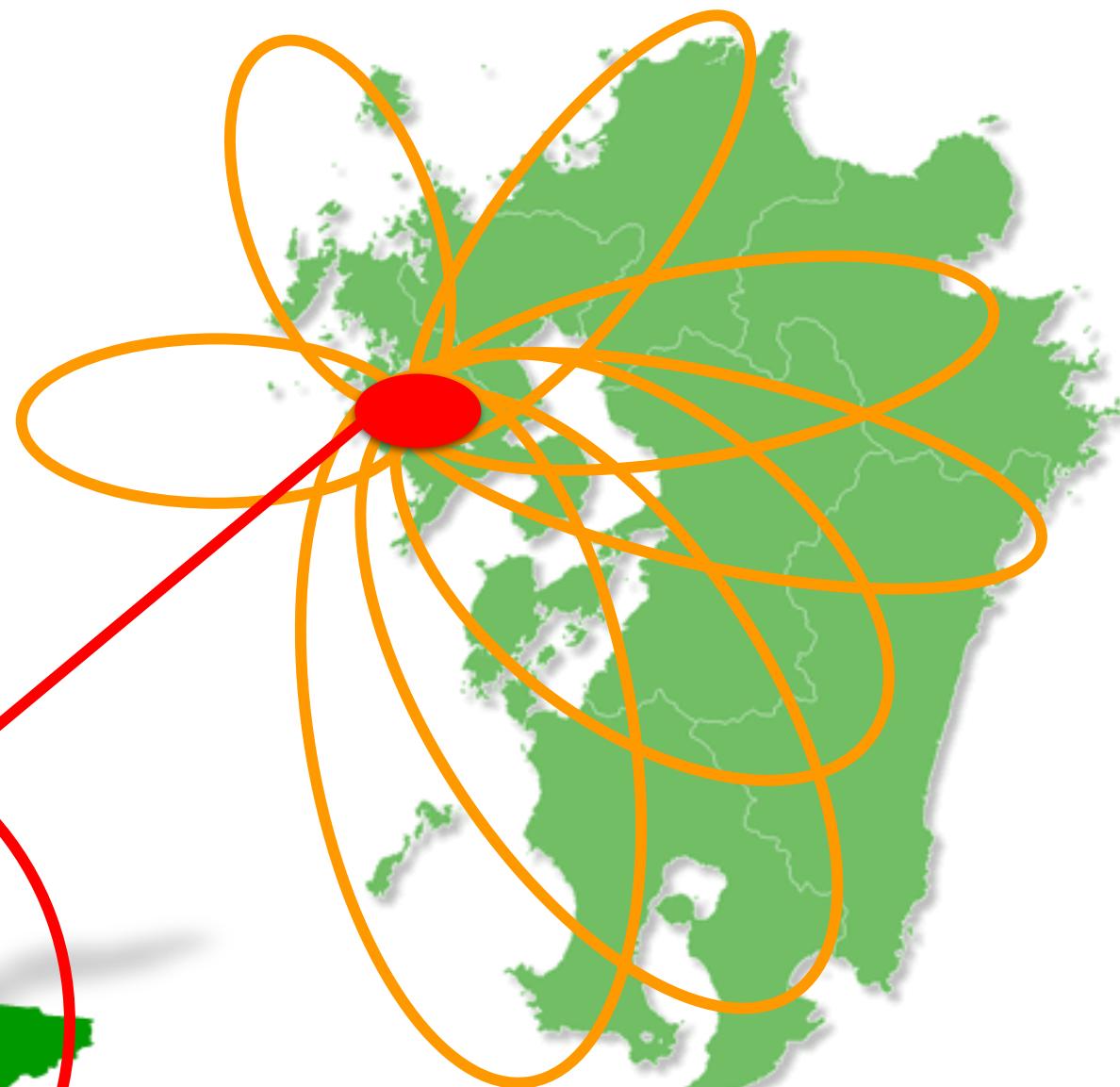
【 I R施設を有する国際観光拠点：佐世保市ハウステンボス地域】

- 高い集客力とリゾートとしてのインフラとノウハウ
- 季節に応じた多種多様なエンターテインメントや良質な宿泊施設
- 交通インフラ（ J Rハウステンボス駅、長崎空港からの海上交通）



【多様な観光ニーズを受け止める広域周遊エリア：九州地域】

- あこがれの上質な温泉地や大自然から日本有数の都市観光まで、多様な楽しみを有する。
- 官民が連携した九州観光推進機構といった県域をこえて、九州一体となった取組を推進する枠組みの存在。



【 I Rと一体となって、その魅力を補完する国際観光リゾートエリア：大村湾を中心とした長崎県域】

- 大村湾を中心としたエリア
- 長崎県の中心に位置し、高速道路などの交通インフラのほか、海外や離島とつながる長崎空港（海上空港）を有する。
- 海の道の強化により、空港から30分圏内のエリア形成が可能。

